

防草シート全面敷設処理と薬剤防除による ユーカリ斑点性病害対策の事例（檜葉町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業
小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証
研究課題名 ユーカリ防草シート敷設2年目の検証（檜葉町）
担当者 小林航太、渡辺明

I 新技術の解説

1 要旨

檜葉町では、斑点性病害によるユーカリの大幅な減収が問題となっている。そこで、ユーカリの栽培ほ場に防草シートを全面敷設するとともに薬剤防除を実施したところ、防草シート敷設による病害抑制効果は判然としなかったが、実証ほ場における発病は軽微であった。

- （1）栽培を行った。また、4月から10月にかけて殺菌剤を散布した（表1）。
- （2）発病程度は慣行、全面敷設において同等の結果を得た（表2）。
- （3）慣行、全面敷設ともに1株あたり約9本の枝を収穫することができ、収穫枝の病害の発生は軽微であった（表3）。

2 期待される効果

- （1）ユーカリ斑点性病害の耕種的防除、化学的防除を行う上で参考になる

3 活用上の留意点

- （1）調査品種は「グニー」を用いた。
- （2）防草シート全面敷設処理を実施した2年株を用いた結果である。

II 具体的データ等

表1 実証ほにおける殺菌剤の散布時期

年度	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
2024		銅			銅			銅	M	I	M			I	M	I			D	M		
2025		銅			銅			銅	銅	M			D		M	D	I			M	I	M

注1) 銅: 銅水和剤、M: マンゼブ水和剤、D: ジェトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤 I: イミノクタジン酢酸塩・ポリオキシ水和剤
注2) イミノクタジン酢酸塩・ポリオキシ水和剤(商品名: ポリベリン水和剤)は令和7年11月に農薬登録が失効している
注3) 「樹木類」、「樹木類(ハイドランジア、やなぎを除く)」、「樹木類(かし、まさき、さるすべりを除く)」にて適用のある殺菌剤を使用した
注4) 実証ほ場で発生している病害に適用のある殺菌剤を使用した

表2 発病葉率および発病度

年度	処理	発病葉率 ^{※1} (%)	発病度 ^{※2}
2024	全面敷設	6.8	1.9 n.s.
	慣行	9.8	2.8
2025	全面敷設	3.8	1.0 n.s.
	慣行	14.6	3.8

注) 供試品種: 「グニー」
注) 各株100葉調査(n=5)。
注) 2024年9月20日、2025年10月15日時点の値
注) Mann-Whitney U検定により、各年度における処理間の有意差はなし
※¹ 調査葉のうち発病している葉の割合
※² 発病度 = {Σ(発病程度別葉数 × 発病指数) / (調査葉数 × 4)} × 100
発病程度については5段階で評価した
(0: 発病なし 1: 病斑広がり0-5% 2: 病斑広がり5-25% 3: 病斑広がり25%-50% 4: 病斑広がり50%以上)

表3 収穫本数および切り枝品質 (2025)

	収穫本数 ^{※1} (本/株)	健全枝本数 ^{※2} (本/株)	出荷規格 ^{※3} 別割合(%)			
			120cm	100cm	90cm	80cm
全面敷設	9.0±2.6	8.4±2.9	40	36	22	2
慣行	9.6±4.7	7.6±4.1	29	49	24	4

注) 平均値±標準偏差(n=5)
※¹ 枝長が出荷規格を満たした枝の本数
※² 収穫枝のうち、罹病葉が確認されなかった枝の本数
※³ 出荷規格は令和2年度福島県青物標準出荷規格に従った

III その他

1 執筆者

小林航太

2 実施期間

令和6～7年度

3 主な参考文献・資料

- (1) 令和4年度営農再開実証技術情報「ユウカリ品種「銀世界」「グニー」における病害発生と比較(檜葉町)」福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター